

## 平成 30 年度調査研究課題 計画外部評価 結果

### 3 PM2.5 の環境規準超過をもたらす地域的/広域的汚染機構の解明

#### [総合評価]

- PM2.5 は現在最も関心を集めている大気汚染現象と言える。本課題は其中で、高濃度発生要因を解明するために II 型共同研究の一環として実施されているものであり、時宜を得たテーマといえる。
- 当センターは共同研究の中でも中核的な役割を担っており、最終年度である H30 に向けても、大きな成果が期待される。
- 共同研究の枠組みだけにこだわらず、共同研究メンバーではない横浜市、川崎市との共同作業を採り入れたり、モデル比較の研究プロジェクトに参画したりするなど、状況に応じた研究遂行がなされている点も、高く評価される。
- H30 年度は最終年度にあたることから、計画を慎重に精査し、神奈川県として注力すべき部分を明確にして取り組むとともに、重要部分に人的資源を集中する等の対処が必要と思われる。
- 非常に多くの成果がでつつあるという良い印象を受けた。
- モデルや表示ソフトを使うことで挙動を立体的、経時的に見せることができ、また、測定だけでは見ることのできない上空や遠隔地の挙動を推定できるなど、使い方によっては多大な成果が期待できる研究だと評価する。他方、多数の機関・研究者が参加していることから、ブラックボックス化される懸念がある。今後は、測定データでモデルを共同で検証するなどにも配慮をしていただきたい。
- 最終年度に向けて挙動の解明から、対策・施策へ結びつける出口についても検討していただきたい。
- 本研究課題は、PM2.5 を対象として、多くの他機関と連携して行われている共同研究である。県民のニーズにも合致した研究課題といえる。汚染要因解析、全国解析、化学輸送モデルの 3 つのサブテーマについて、検討している。平成 29 年度までに、いずれのサブテーマも多くの成果を得られ得ており、学会での報告も行っている。近年の環境基準達成率の向上についても、その要因を検討することが計画されている。各テーマについて、平成 29 年度に継続して、解析を継続する計画となっている。多くの地方環境研究所と国立環境研究所と連携し、検討を続けており、県に取って有益な結果が得られると予想される。
- PM2.5 は広域大気汚染であることから、共同研究で広域的な研究体制を構築している点は高く評価できる。参加研究機関間の役割分担も明確であり、研究計画も適切であると考えられる。
- PM2.5 の発生源対策につながる汚染メカニズムの解明は行政ニーズに応えた研究であるといえる。
- 論文発表や学会報告も積極的に実施されており、引き続き研究成果を発信されたい。

#### [数値的評価]

評価項目	評価の視点	評点				
		5	4	3	2	1
進捗状況	研究計画に対して適切に実施しているか	4 人				
	課題名、実施内容及びスケジュールに修正が必要か					
計画及び体制の妥当性	目的を達成するための今後の進め方は的確か	3 人	1 人			
	情勢の変化に対応した計画の変更が適切、的確に行われているか					

5 点満点（標準 3 点）の評点で 5 ～ 1 点の絶対評価